
始めの言葉（教頭）

1 会長挨拶

- ・学習発表会的な参観も多く、子供たちが「うきうき、ふわふわ」しながら活動していた。その子供たちを見ている保護者の姿が微笑ましかった。

2 校長挨拶

- ・学校は学習のまとめ、6 送会や卒業式に向けての準備の段階に入っている。また、来年度の教育課程編成の時期でもあるので、忌憚のないご意見をいただきたい。
- ・コロナもインフルも落ち着いている。広がらない取り組みをしっかりと進めていきたい。
- ・令和5年度には地域の力を授業に生かしていきたいことを先生方にも伝えてた。地域と学校をつなぐコーディネーター役で適任の方がいたら紹介して欲しい。

【進行 会長】

3 協議

（1）学校より 学校評価（後期）について

- ・前期に比べ、評価の数値が大きく下がった項目はなく、数値の上がった項目が増えた。児童の頑張りはもちろん、家庭や学校での取組の成果が児童の様子に表れてきたのだと捉えている。
- ・⑥の楽しい学校生活の項目について、児童・保護者・職員ともに高評価でした。昨年度からずっと継続して高い数値を得ている。引き続き、保護者・地域と連携して、児童が楽しいと感じられる学校づくりを進めていきたい。
- ・⑬手洗いうがい、⑮防災意識、⑰感染症対策などの安全・健康管理に関する項目は、意識が高く保たれていることがうかがえる。防災に関する項目は、前期に比べ大きく評価が上がった。学校で実施した防災キャンプ（5年生）や避難訓練の経験から意識が高まってきたのだと感じている。
- ・①あいさつ、④外遊び・運動、⑤読書、⑦時間を守る、⑧自分のよさを知るなどの項目においては、児童・職員と保護者との間に評価の開きがある。学校での生活をみていると、これらの項目に関することは、できる子や意識している子は多くなっている。学校を小さな社会と捉えれば、児童は社会生活に必要なことができるようになってきていると言える。今後は、これらの行動を「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できるよう、取組の工夫や声掛けをしていきたいと思う。大人が手本を示していくことも大切でと考える。
- ・③話を聞くことについては、児童はよくできていると捉えている。「話をする人の顔を見ながら話を聞く」という「姿勢」は育ってきて、児童も自信をもっているところだと思う。一方、職員の評価は、前期に比べ下がった。聞く姿勢にプラスして、「内容理解」という点も求めているからだと考えられる。聞く姿勢ができてきたからこそその辛口評価

だと理解して欲しい。

いただいた回答や御意見も参考に、児童が楽しく、健やかに成長できるような教育活動を実践していきたい。児童の成長には、家庭や地域の支えが不可欠。学校・家庭・地域で連携を図りながら、児童の成長を支えていければと思う。

(2) 各委員より

○石井委員

- ・保護者評価の「△」評価は家でのあらわであろう。

○加藤委員

- ・この評価を見て、子供がいろいろなことが分かっていることがうかがえる。保護者の辛口評価は、よりよい子供にしたいという表れだと考える。地域の一員としてで挨拶を交わしているが、立派にできている姿を見ることが多かったり、ヘルメットを含め、アイコンタクトをしながら交通マナーを守れたり、とても良い子供たちだと感じている。

○久保田委員

- ・「自分の良さを知っている」という質問項目は難しい質問項目であると思うが、大人よりも子供の評価が高いことがうれしい。

○山地委員

- ・「自分の良さを知っている」の質問項目は、中学校、高校になると違ってくるのが予想される。大人が潰してしまっているところもあるかもしれない。このまま育って欲しい。

○鈴木委員

- ・「自分の良さを知っている」、この質問項目に対して学校としてはどんな工夫をしているのか。
→認める、褒めるということを常に念頭に置いて取り組んでいる。
- ・そういう取り組みが成果として現れているのではないかと考える。

○辻委員

- ・学校の評価は「◎」で、保護者の評価が「△」になっているところは、我が子もできなかったことを覚えている。このことについて、その当時の担任と話したが、学校ではしっかりできて、家でできないのは、それだけ家が安心できる場所であることの証明であると指摘されたことを思い出す。この逆で、学校でだらけていて、家庭で緊張しているのは子供にとってもつらいことであろう。函南小は、家庭が安心できる場所であることが分かる。

○石井委員

- ・「自己肯定感」「褒めて伸ばす」等は、良い面もあるが、子供が勘違いするなどこともあるのではないかと。学校で目指していることを家庭でも共通理解して、同一步調でやっていければ更に良いと思う。

○加藤委員

- ・授業が充実して、楽しかったと子供が思えば、教師も喜びを感じる。
- ・廊下の作品を見て感じたが、見ている者の心が揺さぶられる作品が多い。あのレベルの作品を作るには、作っている本人が集中していないとできない。集中して授業に取り組める環境を先生方が作っているからであると思う。

○梅原委員

- ・最近、青少年の強盗、殺人のニュースが報道されている。どの時点であのように変わってしまうのか。小学校時代に良くても、大人になってあのような事件を起こしたらどうしようもない。そういった子供たちがいることが残念。どこかですさんだ心にならないようにするためにも、小学校だけでなく、中学校、高校とも連携して子供を育てて欲しい。

○稲葉委員

- ・子供が満たされていなかったり、本人が愛情を感じなかったりすると道を踏み外してしまうのではないかと思う。親も含めて、話を聞いてくれる人がいれば踏みとどまれると思う。そう信じたい。その子を見ている誰かがいることが大切であると考えている。

○鈴木委員

- ・稲葉委員が言ってくださったことが、コミュニティースクールの大切な部分であると感じる。学校で抱え込まず、地域に助けを求めて欲しい。
- ・地域連携は「◎」と評価されているが、学校で行われていることをもっとHPを活用していけたら良いと思う。

○石井委員

- ・「HP」については、地域懇談会でも同じよう話題が出された。

○鈴木委員

- ・「HP」については、ハードルが高い部分もあるが、取り組んで欲しい。

(3)その他

- ・150周年記念行事については、5月27日(土)運動会 11月10日(金)学びの集いの行事に絡めていきたい。
- ・11月10日(金)の午後に「航空写真」を予定している。

4 終わりの言葉(教頭)

- ・引き続き、学校運営に協力をお願いしたい。